

「人間ドックで肺機能検査低下を認める受診者における Asymptomatic airway

hyperresponsiveness の割合」に関する臨床研究

人間ドックを受診された患者様へ

当院人間ドックにおいて2016年1月1日より2021年7月15日の間に肺機能検査を受けた患者さんのデータ及び、その後呼吸器内科で精密検査を受けた際のデータをもとに、症状のない気道過敏性のある喘息と思われる患者様の割合を調べようという研究です。

症状が全くないのに気管支が過敏であることが証明された患者さんは、喘息の前段階と言われています。この状態を Asymptomatic airway hyperresponsiveness

(AAH と略します) と名付けています。呼吸機能検査を行うと、可逆性のある閉塞性障害（気管支が狭くなり空気が通りにくい状況、ただし様々な外部の影響を受け改善することもあります）を示し、少しの刺激でもすぐに反応する過敏性を持っています。気管支の過敏性は喘息患者さんで見られる肺機能の所見ですが、AAH の患者様は喘息症状のヒューヒューした呼吸や咳が一度も見られません。しかし肺機能は低下しているため、今後喘息になる確率が高いとされています。海外ではこのような患者さんは気管支喘息に進展する前段階として研究が進められていますが、日本における気管支が敏感になった患者様の頻度は知られていません。

今回患者様の肺機能、自覚症状、血液検査結果などの検査が行われていればそれを確認した上で、人間ドックを受けた全ての患者様のうち、何%ぐらいが AAH と診断できるか検討したいと思っています。

あなたの名前は特定の番号で管理され、研究の成果を学会等に公表する際にも、個人を特定できる形では公表しません。

もしあなたが匿名であっても、ご自身のデータを使われることは希望しない場合は、あなたのデータを解析から省くことができますのでお申し出ください。また

データを使用しなくてもあなたの通常の診療には影響はありません。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

研究期間：2016年1月1日から2021年7月15日に人間ドックで行なったデータを用います。

研究に用いるデータ：肺機能検査（努力性肺活量(FVC)、1秒量(FEV1)、1秒率(%FEV1)、%1秒量(%FEV1)、V25, V50, R25, 肺CTおよびレントゲン、採血（血液の中の好酸球の数）、気道過敏性試験を受けている患者様では気道過敏性試験の結果

この調査の対象となられる方で、ご自分あるいはご家族の情報を登録したくない場合は2022年10月31日までに下記連絡先までご連絡ください。解析対象より除外いたします。なお、お申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

連絡先：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院呼吸器内科 駒瀬裕子

Tel:045-366-1111(PHS 8124)

臨床研究責任医師：呼吸器内科 駒瀬裕子

【連絡先】 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

呼吸器内科 駒瀬裕子

Tel:045-366-1111(PHS 8124)